

科目名	生化学	単位	1	時間	30	講師名	院外講師
開講時期	1年生 1学期						
科目的目的と概要	生体とエネルギーの機能について系統立てて理解する。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 生体とエネルギーの機能について基本的な知識が習得できる。 2. 生体の基本的知識だけにとどまらず、生活者として視野を広げ考えることができる。						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 代謝総論・細胞			2		講義	
2	糖類			2		講義	
3	脂質			2		講義	
4	タンパク質とアミノ酸			2		講義	
5	核酸・ビタミン			2		講義	
6	ビタミン・酵素			2		講義	
7	糖質代謝			2		講義	
8	糖質代謝・脂質代謝			2		講義	
9	脂質代謝			2		講義	
10	アミノ酸代謝			2		講義	
11	アミノ酸代謝			2		講義	
12	核酸・ヌクレオチド代謝			2		講義	
13	遺伝情報(ゲノムと遺伝子 タンパク合成)			2		講義	
14	先天性代謝異常			2		講義	
15	まとめ			1		講義	
16	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能2 臨床生化学(メディカ出版)						
関連科目	人体の構造演習 人体の構造と機能 I ~IV 病態生理学総論 微生物学 臨床栄養学						

科目名	人体の構造演習	単位	1	時間	15	講師名	教員
開講時期	1年生 1学期						
科目的目的と概要	看護の対象である人間を個体の発生・人体を構成する細胞・組織・器官構造から理解する。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 機能(器官)からみた人体について自身で学習したことを表現することができる。 2. 人体の構造と機能について、体内での臓器の位置などをイメージしながら理解できる。						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 人体とはどのようなものか 人体の構造と機能を学ぶ意義 DVD「人体の不思議」視聴	2	講義				
2	2. 機能(器官)からみた人体 グループワーク 1)呼吸器系 2)循環器系 3)消化器系 4)脳・神経系 5)腎・泌尿器系 6)生殖器系 7)感覚器系 8)血液、体液系 9)筋・骨格系 10)外皮系	2	演習				
3	2. 機能(器官)からみた人体 グループワーク 1)呼吸器系 2)循環器系 3)消化器系 4)脳・神経系 5)腎・泌尿器系 6)生殖器系 7)感覚器系 8)血液、体液系 9)筋・骨格系 10)外皮系	2	演習				
4	2. 機能(器官)からみた人体 グループワーク発表・まとめ	2	演習				
5	3. 構造からみた人体 1)人体各部の名称 2)人体の骨格・筋・血管の構造・名称 3)人体の臓器の位置や構造・名称 4)人体内部の腔所と膜	2	講義				
6	4. 人体の素材としての細胞・組織 1)細胞の構造 2)細胞内情報伝達 3)人体を構成する基本組織 (上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)	2	講義				
7	5. 人体の発生と老化 1)生命の誕生、発生の初期過程 ・男性生殖器・女性生殖器・生殖細胞・性染色体と性の決定 ・受精と着床・初期発生・細胞分裂 2)成長と老化	2	講義				
8	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学(医学書院) からだの地図帳 新版(講談社) 解剖生理学ワークブック(医学書院)						
関連科目	生化学 微生物学 人体の構造と機能 I～IV 病態生理学総論 病態生理学 I～IV 生活アセスメント論						

科目名	人体の構造と機能 I	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生 1学期						
科目的目的と概要	人間の生命活動を維持する呼吸器・循環器の構造と機能を看護に関連付けて理解する。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 呼吸器・循環器の構造と機能の基本的な知識が習得できる。 2. 呼吸器・循環器の構造と機能が、日常生活行動にどう影響するのかを理解できる。						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 生命維持に必要な器官 1) 日常生活行動【息をする】 (1) 息を吸う・吐く (2) 呼吸器の構造 ・上気道 ・発声 ・下気道と肺 ・胸部内臓(胸膜・縦隔)	2	講義				
2	1) 日常生活行動【息をする】 (3) 呼吸器の機能 ・気道、肺胞の機能	2	講義				
3	1) 日常生活行動【息をする】 (4) 呼吸運動 ・呼吸のメカニズム ・呼吸筋	2	講義				
4	1) 日常生活行動【息をする】 (5) 肺気量 ・1回換気量 ・肺活量と1秒率 ・換気障害 ・拡散障害	2	講義				
5	1) 日常生活行動【息をする】 (6) ガス交換 ・外呼吸と内呼吸 ・肺におけるガス交換 ・血液によるガスの運搬 ・肺循環 ・換気血流比不均等の調節	2	講義				
6	1) 日常生活行動【息をする】 (7) 呼吸運動の調節 ・呼吸の神経性調節 ・呼吸中枢 ・化学受容器 ・呼吸運動の異常	2	講義				
7	1) 日常生活行動【息をする】 (8) 呼吸と酸塩基平衡 ・酸塩基の異常 ・アルカローシス、アシドーシス	2	講義				
8	2) 恒常維持のための物質の流通 (1) 末梢循環系 ・血管の構造(動脈、静脈、毛細血管) ・全身の動脈、静脈(肺循環と体循環、門脈系、冠循環、脳循環)	2	講義				
9	2) 恒常維持のための物質の流通 (2) 心臓 ・心臓の構造と機能	2	講義				
10	2) 恒常維持のための物質の流通 (2) 心臓 ・心臓の興奮とその伝播 ・心電図	2	講義				
11	2) 恒常維持のための物質の流通 (2) 心臓 ・心臓の収縮(心拍出量、心周期)	2	講義				
12	2) 恒常維持のための物質の流通 (3) 血液循環の調節 ・血圧(血圧の生理) ・補助ポンプ ・血圧、血流量の調節	2	講義				
13	2) 恒常維持のための物質の流通 (1) 末梢循環系・リンパ系の構造と機能(リンパ管、胸管、リンパ節、リンパ液) ・胎児の循環	2	講義				
14	2) 恒常維持のための物質の流通 (3) 血液循環の調節 ・微小循環(物質交換の機序、浮腫) (4) 循環器系の病態生理	2	講義				
15	まとめ	1	講義				
16	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学(医学書院) からだの地図帳 新版(講談社) 解剖生理学ワークブック(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能IV 病態生理学総論 病態生理学 I 生活アセスメント論 生命維持援助基礎技術						

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	単位	1	時間	30	講師名	教員
実施期間	1年生 1学期						
科目の目的 と概要	栄養吸収と排泄をつかさどる消化器と腎・泌尿器系の構造と機能を看護と関連づけて理解する。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 栄養吸収・排泄を司る消化器と腎・泌尿器系の構造と機能の基本的な知識が習得できる。 2. 栄養吸収・排泄を司る消化器と腎・泌尿器系の構造と機能が、日常生活行動にどう影響するのかを理解できる。						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 栄養吸収をつかさどる器官 1) 日常生活行動【食べる】 (1) 食欲 (2) 食行動　・食物を口まで運ぶ　・食物の性質の判断　・口の準備			2		講義	
2	1) 日常生活行動【食べる】 (3) 咀嚼し味わう　・咀嚼筋　・口腔　・歯　・味覚と神経支配 (4) 飲み込む(嚥下) 食道			2		講義	
3	1) 日常生活行動【食べる】 (5) 消化と吸收　・腹部消化管の構造と機能(胃・小腸)			2		講義	
4	1) 日常生活行動【食べる】 (5) 消化と吸收　・腹部消化管の構造と機能(大腸)			2		講義	
5	1) 日常生活行動【食べる】 (5) 消化と吸收　・脾臓、肝臓、胆嚢の構造と機能			2		講義	
6	1) 日常生活行動【食べる】 (5) 消化と吸收　・腹部消化管の構造と機能(栄養素の消化と吸收)			2		講義	
7	2. 排泄をつかさどる器官 2) 日常生活行動【排泄する】 (1) 排便 ①排便のしくみ ②排便にかかわる神経支配			2		講義	
8	2) 日常生活行動【排泄する】 (2) 排尿 ①腎臓の構造と機能 ②糸球体の構造と機能 ③尿細管の構造と機能　・尿生成のメカニズム(濾過・分泌・再吸収)			2		講義	
9	2) 日常生活行動【排泄する】 (2) 排尿 ④傍糸球体装置の構造と機能 ・レニンーアンギオテンシンーアルドステロン系 ⑤排尿路の構造　⑥排尿のしくみ(尿の貯蔵と排尿)			2		講義	
10	3. 体内環境を整える 2) 日常生活行動【体内環境を整える】 ①体液量調節の機構　・体液の区分　・体液の出納バランス　・体内の水分			2		講義	
11	2) 日常生活行動【体内環境を整える】 ①体液量調節の機構 ・酸塩基平衡(代謝性アシドーシス・アルカローシス)			2		講義	
12	4. 消化器系、腎泌尿器系の解剖生理の課題 グルーブワーク① 課題:消化器系、腎泌尿器系に関する患者からの質問について説明			2		演習	
13	4. 消化器系、腎泌尿器系の解剖生理の課題 グルーブワーク② 課題:消化器系、腎泌尿器系に関する患者からの質問について説明			2		演習	
14	4. 消化器系、腎泌尿器系の解剖生理の課題 発表・まとめ			3		演習	
15	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学(医学書院) からだの地図帳 新版(講談社) 解剖生理学ワークブック(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能IV 病態生理学総論 病態生理学II 生活アセスメント論 生命維持援助基礎技術						

科目名	人体の構造と機能III	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生 1学期						
科目的目的 と概要	神経の伝導と反応をつかさどる運動器系・脳神経系の構造と機能を看護と関連付けて理解する。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 神経の伝導と反応をつかさどる運動器系・脳神経系の構造と機能の基本的な知識が習得できる。 2. 神経の伝導と反応をつかさどる運動器系・脳神経系の構造と機能が、日常生活行動にどう影響するのかを理解できる。						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1.活動と休息をつかさどる器官 1)日常生活行動【動く】 (1)骨格の構造と機能	2	講義				
2	1. 活動と休息をつかさどる器官 1)日常生活行動【動く】 (2)関節の構造	2	講義				
3	1. 活動と休息をつかさどる器官 1)日常生活行動【動く】 (3)骨格筋の構造と機能	2	講義				
4	1. 活動と休息をつかさどる器官 1)日常生活行動【動く】 (4)日常生活での基本的動き	2	講義				
5	2. 日常生活行動【身体を清潔にする】 (1)垢を落とす(皮膚の働き) (2)皮膚と付属物・表皮、真皮、皮下組織、毛、爪、皮脂腺 (3)皮膚の感覚	2	講義				
6	3. 恒常性維持のための調節機構 (1)神経細胞と神経組織	2	講義				
7	3. 恒常性維持のための調節機構 (2)中枢神経系の構造と機能	2	講義				
8	3. 恒常性維持のための調節機構 (3)脳脊髄液循環	2	講義				
9	3. 恒常性維持のための調節機構 (4)末梢神経系の構造と機能	2	講義				
10	3. 恒常性維持のための調節機構 (5)脳の高次機能	2	講義				
11	4. 日常生活行動【話す・聞く】 (1)声を出す(大脳言語野・発声に関わる器官) (2)聞く(耳の構造・聴覚・平衡感覚) (3)言葉(言語野の連携・聞いて話す)	2	講義				
12	5. 日常生活行動【見る】 (1)見る(眼の構造・視覚)・視野、視力、色覚、遠近調節・明暗順応 ・眼球に関する反射 (2)眼球付属器	2	講義				
13	6. 日常生活行動【におう・味わう】 (3)におう(嗅覚器の構造・嗅覚) (4)味わう(舌・味覚)	2	講義				
14	7. 日常生活行動【眠る・痛む】 (1)からだのリズム・サーカディアンリズム (2)眠り・ノンレム睡眠・レム睡眠・睡眠パターン (3)痛む	2	講義				
15	まとめ	1	講義				
16	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学(医学書院) からだの地図帳 新版(講談社) 解剖生理学ワークブック(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能IV 病態生理学総論 病態生理学IV 生活アセスメント論 日常生活援助基礎技術						

科目名	人体の構造と機能IV	単位	1	時間	30	講師名	外部講師
開講時期	1年生 1学期						
科目の目的 と概要	身体の内部環境の調節・免疫を担う機能について看護と関連づけて理解する。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 身体の内部環境の調節・免疫を担う機能の基本的な知識が習得できる。 2. 身体の内部環境の調節・免疫を担う機能が、日常生活行動にどう影響するのかを理解できる。						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 血液の働き【身体を整える】 1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 白血球 4) 血小板	2	講義				
2	1. 血液の働き【身体を整える】 5) 血漿タンパク質 6) 血液の凝固と纖維素溶解 7) 血液型	2	講義				
3	2. 内部環境の調節【身体を整える】 1) ホメオスタシスとその維持・フィードバック機構 3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 1) 自律神経による調節 2) 内分泌による調節	2	講義				
4	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 3) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 視床下部 下垂体	2	講義				
5	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 4) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 甲状腺	2	講義				
6	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 5) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 脳臓	2	講義				
7	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 6) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 副腎	2	講義				
8	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 7) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 性腺	2	講義				
9	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 7) 恒常性維持のためのホルモンの調節の実際 ・血糖の調節	2	講義				
10	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 8) 恒常性維持のためのホルモンの調節の実際 ・血中カルシウムの調節・ストレスとホルモン	2	講義				
11	3. 恒常性維持のための調節機構【身体を整える】 9) 恒常性維持のためのホルモンの調節の実際 ・調節機能の実際を演習(図式化・発表)	2	講義				
12	4. 生体の防御機構【身体を守る】 1) 非特異的防御機構 2) 特異的防御機構	2	講義				
13	4. 生体の防御機構【身体を守る】 3) 体温とその調節	2	講義				
14	4. 生体の防御機構【身体を守る】 4) 免疫の異常 5) 生体防御の関連機関	2	講義				
15	まとめ	1	講義				
16	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学(医学書院) からだの地図帳 新版(講談社) 解剖生理学ワークブック(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能 I ~ III 病態生理学総論 病態生理学IV 生活アセスメント論						

科目名	病態生理学 I	単位	1	時間	30	講師名	院内講師(医師)
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的と概要	呼吸器疾患、循環器疾患の病態を理解し、その診断、治療について学ぶ。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 呼吸器疾患、循環器疾患の病態の基本的な知識が習得できる。 2. 呼吸器疾患、循環器疾患の診断・検査・治療についての知識が習得できる。						
回数	教育内容		時間	方法			
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 呼吸器疾患に伴う主な症状 (喀痰・咳嗽・胸痛・呼吸困難・チアノーゼなど)		2		講義		
2	2. 呼吸器疾患における検査と治療の概要 1)検査(血液・喀痰検査、胸水検査、画像診断、内視鏡、生検、呼吸機能検査など) 2)治療(内科的治療と外科的治療)		2		講義		
3	3. 呼吸器疾患の病態・生理と検査・治療 気管支炎、肺炎、肺結核		2		講義		
4	間質性肺炎、気道疾患(気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など)		2		講義		
5	肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症)、呼吸不全、肺腫瘍(肺がんなど)		2		講義		
6	胸膜、縦隔、横隔膜の疾患(胸膜炎、気胸、中皮腫)、肺移植、胸部外傷など		2		講義		
7	4. 呼吸器外科における外科的治療・処置 1)手術療法 ①開胸術・胸腔鏡手術 ②手術に伴う合併症とその対策 2)胸腔ドレナージ		2		講義		
8	まとめ		1		講義		
9	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 循環器疾患に伴う主な症状(胸痛・動悸・呼吸困難・浮腫・ショック) 2. 循環器疾患における検査と治療の概要 1)検査(心電図、胸部X線検査、心エコー法、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング)		2		講義		
10	2)治療 ①内科的治療(薬物療法、PCI、アブレーション、ペースメーカー) ②外科的治療(バイパス術、弁置換術)		2		講義		
11	3. 循環器疾患の病態生理と検査・治療 虚血性心疾患(狭心症、急性冠症候群)		2		講義		
12	心不全(急性心不全、慢性心不全)、血圧異常(動脈硬化症、本態性高血圧、二次性高血圧、起立性低血圧)		2		講義		
13	不整脈(徐脈性不整脈、頻脈性不整脈)、弁膜症(大動脈弁疾患、僧帽弁疾患)		2		講義		
14	心膜疾患(心膜炎、心タンポナーデ)、心筋疾患(肥大型心筋症、拡張型心筋症、心筋炎)		2		講義		
15	先天性心疾患(心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症)、血管疾患(大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、静脈瘤、深部静脈血栓症)		2		講義		
16	終講試験		1		試験		
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 II 呼吸器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 II 循環器(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能 I 病態生理学総論 薬理学 病態アセスメント演習 I 臨床看護総論						

科目名	病態生理学II	単位	1	時間	30	講師名	院内講師(医師)
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的と概要	消化器疾患、腎・泌尿器疾患の病態を理解し、その診断、治療について学ぶ。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 消化器疾患、腎・泌尿器疾患の病態の基本的な知識が習得できる。 2. 消化器疾患、腎・泌尿器疾患の診断・治療についての知識が習得できる。						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 腎・泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 腎炎、慢性腎臓病、腎不全			2		講義	
2	1. 腎・泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患(腎孟腎炎、膀胱炎)			2		講義	
3	1. 腎・泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌)			2		講義	
4	1. 腎・泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 腎・尿路結石			2		講義	
5	1. 腎・泌尿器系の疾患の病態と診断・治療 排尿障害(過活動膀胱、腹圧性失禁、夜尿症)			1		講義	
6	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 2. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患(逆流性食道炎、急性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染)			2		講義	
7	2. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)			2		講義	
8	2. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療 腫瘍(食道癌、胃癌)			2		講義	
9	3. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎、クロhn病、虫垂炎、痔瘻) イレウス			2		講義	
10	3. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療 腫瘍(大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌)排便障害(便秘、下痢)			2		講義	
11	4. 肝臓・胆嚢・脾臓の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患(肝炎、胆管炎、脾炎)			2		講義	
12	4. 肝臓・胆嚢・脾臓の疾患の病態と診断・治療 肝硬変			2		講義	
13	4. 肝臓・胆嚢・脾臓の疾患の病態と診断・治療 腫瘍(肝癌、胆囊癌、胆管癌、脾癌)			2		講義	
14	4. 肝臓・胆嚢・脾臓の疾患の病態と診断・治療 脂肪肝、アルコール性肝炎、胆石症			2		講義	
15	5. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療 鼠径ヘルニア、腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆			2		講義	
16	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 消化器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野II 腎泌尿器(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能II 病態生理学総論 薬理学 生命維持援助基礎技術 臨床看護総論						

科目名	病態生理学III	単位	1	時間	30	講師名	院内外講師(医師・看護師)
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的と概要	脳神経疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患の病態を理解し、その診断、治療について学ぶ。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 脳神経疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患の病態の基本的な知識が習得できる。 2. 脳神経疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患の診断・治療についての知識が習得できる。						
回数	教育内容			時間	方法		
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 内科系脳神経疾患の病態と診断・治療			2	講義		
2	筋ジストロフィー、重症筋無力症、ギランバレー症候群、顔面神経麻痺、自律神経失調症、圧迫性神経障害			2	講義		
3	1. 内科系脳神経疾患の病態と診断・治療 多発性硬化症 PD、ALS			2	講義		
4	中毒 てんかん 認知症(アルツハイマー、血管性、レビー小体)			2	講義		
5	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 2. 外科系脳神経疾患の病態と診断・治療 頭部外傷			2	講義		
6	2. 外科系脳神経疾患の病態と診断・治療 脳血管障害(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病) 頭蓋内圧亢進症			2	講義		
7	2. 外科系脳神経疾患の病態と診断・治療 脳炎、髄膜炎			2	講義		
8	2. 外科系脳神経疾患の病態と診断・治療 脊髄損傷			2	講義		
9	2. 外科系脳神経疾患の病態と診断・治療 脳腫瘍			2	講義		
10	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 3. 運動器疾患の病態と診断・治療 骨折、脱臼、捻挫、骨粗鬆症			2	講義		
11	3. 運動器疾患の病態と診断・治療 腫瘍(骨肉腫)			2	講義		
12	3. 運動器疾患の病態と診断・治療 変形性関節症			2	講義		
13	3. 運動器疾患の病態と診断・治療 腰痛症(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症)			2	講義		
14	3. 運動器疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患(骨、骨髄炎、関節炎)			1	講義		
15	4. 歯・口腔疾患の病態と診断・治療 歯の構造と機能、解剖、う歯と歯周病 検査 義歯とブリッジ 義歯の取り扱いについて			2	講義		
16	終講試験			1	試験		
評価方法	筆記試験(100点) 1~14の範囲						
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 脳・神経(医学書院) 系統看護学講座 専門分野II 運動器(医学書院) 系統看護学講座 専門分野II 歯・口腔(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能II 病態生理学総論 薬理学 日常生活援助基礎技術 臨床看護総論						

科目名	病態生理学IV	単位	1	時間	30	講師名	院内外講師(医師)
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的と概要	内分泌・代謝疾患、アレルギー・膠原病疾患、血液疾患、感覚器疾患(皮膚・眼・耳鼻)の病態を理解し、その診断、治療について学ぶ。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 内分泌・代謝疾患、アレルギー・膠原病疾患、血液疾患、感覚器疾患(皮膚・眼・耳鼻)の病態の基本的な知識が習得できる。 2. 内分泌・代謝疾患、アレルギー・膠原病疾患、血液疾患、感覚器疾患(皮膚・眼・耳鼻)の診断・治療についての知識が習得できる。						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 感覚器 皮膚疾患の病態と診断・治療 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱瘡、蕁麻疹、接触性皮膚炎)	2	講義				
2	1. 感覚器 皮膚疾患の病態と診断・治療 皮膚障害(疥癬、蜂窩織炎)	1					
3	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 2. 感染症の病態と診断・治療 感染症の成立する条件、病態生理、よくみられる症状	2					
4	2. 感染症の病態と診断・治療 感染症治療薬の原則、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	2					
5	2. 感染症の病態と診断・治療 上気道感染症、下気道感染症	2					
6	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 3. 内分泌・代謝疾患の病態と診断・治療 内分泌系疾患(間脳、甲状腺機能亢進症・低下症、副甲状腺疾患)	2					
7	3. 内分泌・代謝疾患の病態と診断・治療 内分泌疾患(副腎皮質、髄質疾患、下垂体腫瘍、甲状腺癌)	2					
8	3. 内分泌・代謝疾患の病態と診断・治療 代謝異常疾患(DM、脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症)	2					
9	3. 内分泌・代謝疾患の病態と診断・治療 体液調整の疾患(水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常)	1					
10	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 4. 血液・造血器疾患の病態と診断・治療 貧血(鉄欠乏性、巨赤芽球性、溶血性、骨髓異形成、二次性)	2					
11	4. 血液・造血器疾患の病態と診断・治療 腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	2					
12	4. 血液・造血器疾患の病態と診断・治療 出血性疾患(TTP, ITP, DIC)	2					
13	4. 血液・造血器疾患の病態と診断・治療 白血球減少症	1					
14	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 6. 耳鼻咽喉疾患の病態と診断・治療 聴覚障害(難聴、メニエール病)嗅覚、味覚障害	2					
15	6. 耳鼻咽喉疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患(咽頭炎、扁桃炎) 肿瘍(舌癌、咽頭癌、甲状腺癌)	2					
16	5. 眼科疾患の病態と診断・治療 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)	2					
17	終講試験	1					
評価方法	筆記試験(100点) 3~15の範囲						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 II 内分泌・代謝(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 II アレルギー・膠原病・感染症(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 II 血液・造血器(医学書院) / 系統看護学講座専門分野 II 耳鼻咽喉(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 II 皮膚(医学書院) / 系統看護学講座 専門分野 II 眼(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能II 病態生理学総論 薬理学 日常生活援助基礎技術 臨床看護総論						

科目名	臨床栄養学	単位	1	時間	30	講師名	院内講師
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的と概要	病態生理学・生化学を基礎に、栄養アセスメントにより適切な栄養診断および栄養評価を行うための基礎的な知識を学ぶ。また、健康障害と栄養療法について、系統別の食事療法の実際を学ぶ。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP5, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 人体に必要な栄養の基本的知識を習得する。 2. 栄養アセスメントにより、栄養診断及び栄養評価を行うための基礎的な知識を習得する。 3. 各ライフステージに必要な栄養が理解できる 3. 健康障害と栄養療法について、系統別の食事療法の実際を理解する。						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 人間栄養学と看護			2		講義	
2	栄養素の種類とはたらき			2		講義	
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			2		講義	
4	エネルギー代謝			2		講義	
5	食事と食品			2		講義	
6	栄養ケア・マネジメント			2		講義	
7	ライフステージと栄養			2		講義	
8	妊娠期における栄養			2		講義	
9	臨床栄養(栄養剤・病院食)			2		講義	
10	臨床栄養(疾患別・症状別)			2		講義	
11	臨床栄養(代謝異常)			2		講義	
12	臨床栄養(術前・術後・高齢者)			2		講義	
13	がんの食事療法 特殊食品の説明			2		講義	
14	特殊食品の試飲・試食 NSTについて(DVD鑑賞)			3		演習 講義	
15	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学(医学書院) 糖尿病食事療法のための食品交換表(日本糖尿病協会・文光堂)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能 I ~IV 病態生理学総論 病態生理学 I ~IV 薬理学 生命維持援助基礎技術						

科目名	病態アセスメント演習 I	単位	1	時間	30	講師名	教員・理学療法士
開講時期	1年生 2学期						
科目の目的と概要	看護の対象となる人の身体の状態を把握する意義と重要性を理解し、必要な観察技術を身に着ける。症状・徴候から対象に起こっていることを、学んだ観察技術を用いたアセスメント技術を学ぶ。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP4, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 対象の身体的状態を把握する意義と重要性を理解する。 2. 対象の身体的状態を把握するために必要な観察技術を習得する。 3. 習得した技術を用いて、症状・徴候を観察し対象の身体的状態をアセスメントできる。						
回数	教育内容		時間		方法		
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) フィジカルアセスメントの基本原則 2) 問診、視診、触診、打診、聴診の技術		2		講義		
2	3) バイタルサイン(体温・呼吸)測定の意義 (*SPO ₂ 含む)		2		講義		
3	4) バイタルサイン(脈拍・血圧)測定の意義		2		講義		
4	5) バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)測定の方法		2		講義		
5	演習 6) バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧)測定		2		演習		
6	7) バイタルサインの正常・異常のアセスメント		2		講義		
7	技術試験 バイタルサイン測定		1		試験		
8	3. 身体機能別アセスメントの考え方と実際 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント		2		講義		
9	2) 循環器系のフィジカルアセスメント		2		講義		
10	演習 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 4) 循環器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション		2		演習		
11	5) 消化器系(腹部)のフィジカルアセスメント		2		講義		
12	6) 脳神経系のフィジカルアセスメント 7) 感覚器系のフィジカルアセスメント		2		講義		
13	演習 8) 消化器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 8) 脳神経系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 10) 感覚器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション		2		演習		
14	11) 運動器系のフィジカルアセスメント		2		講義		
15	演習 6) 運動器系のフィジカルアセスメント (*PTによる関節可動域、MMT測定)		2		演習		
16	終講試験		1		試験		
評価方法	筆記試験(80点) 技術試験:バイタルサイン測定(20点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (医学書院) 日常生活行動からみるヘルスマセスメント(日本看護協会出版会) 看護過程に沿った対症看護(学研メディカル秀潤社)						
関連科目	人体の構造演習 人体の構造と機能 I ~ IV 病態生理学総論 病態生理学 I ~ IV 臨床看護総論						

科目名	薬理学	単位	1	時間	30	講師名	院内講師(薬剤師)
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的と概要	薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について学ぶ。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP4, DP5, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 薬物の特徴、作用機序を習得する。 2. 薬物が人体に及ぼす影響を理解できる。 3. 薬物の管理の基礎的知識を習得する。						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 薬理学総論、薬学を学ぶにあたって			2		講義	
2	薬理学の基礎知識(A薬力学・B動態学)まで (薬理効果に影響する要因)			2		講義	
3	薬理学の基礎知識(C薬物相互作用～F法律)まで (禁忌・保存方法)			2		講義	
4	各論 抗感染症薬			2		講義	
5	各論 抗がん薬・抗炎症薬・麻薬			2		講義	
6	各論 免疫治療薬・抗アレルギー薬・副腎皮質ステロイド薬			2		講義	
7	各論 中枢神経系に作用する薬物 (消炎鎮痛薬)			2		講義	
8	各論 末梢での神経活動に作用する薬物			2		講義	
9	各論 心臓血管に作用する薬物 (強心薬・抗不整脈薬・狭心症治療薬・抗血栓薬・降圧薬・昇圧薬)			2		講義	
10	各論 呼吸器・消化器・生殖器系を作用する薬物 (利尿薬・消化性潰瘍薬・下剤)			2		講義	
11	各論 物質代謝に作用する薬物 (糖尿病治療薬)			2		講義	
12	各論 皮膚科用薬、眼科用薬、救急の際に使用される薬物			2		講義	
13	各論 漢方薬 消毒薬			2		講義	
14	各論 輸液製剤・輸血剤 看護に必要な薬の知識			3		講義	
16	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学(医学書院)						
関連科目	生化学 人体の構造演習 人体の構造と機能 I～IV 病態生理学総論 微生物学 臨床栄養学 病態生理学 I～IV 関係法規 医療安全						

科目名	関係法規	単位	1	時間	30	講師名	教育主事 院内講師(経営企画室長)
開講時期	3年生 1学期						
科目的目的 と概要	保健師助産師看護師法を中心とした看護行為に関連する法律、指針等を理解する。 総合保健医療チームの一員として必要な法令について理解する。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP5、DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 法の概念と種類が理解できる。 2. 保健師助産師看護師法の内容が理解できる 3. 看護に必要な法令が理解できる						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 法の概念 法の種類 医療関係資格法 保健師助産師看護師法(目的・定義・構造と附属伝令)			2		講義	
2	保健師助産師看護師法(免許・業務・研修・義務・試験・学校・養成所)			2		講義	
3	保健師助産師看護師法(医療過誤・罰則・沿革) 看護師等の人材確保の促進 ナースセンター			2		講義	
4	医事法(医療法、医療関係資格法)			2		講義	
5	医事法(医療を支える法)			3		講義	
6	保健衛生法(地域保健法、分野別保健法)			2		講義	
7	保健衛生法(分野別保健法)			2		講義	
8	保健衛生法(感染症に関する法、食品に関する法)			2		講義	
9	薬務法			2		講義	
10	環境衛生法			2		講義	
11	社会保険法			2		講義	
12	福祉法			2		講義	
13	労働法と社会基盤整備			2		講義	
14	環境法			2		講義	
15	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令(医学書院)						
関連科目	社会福祉、健康支援論、公衆衛生学、保健医療論、保健医療福祉チーム演習、看護学概論、地域・在宅看護論、看護総合マネジメント						

科目名	社会福祉	単位	1	時間	30	講師名	院外講師
開講時期	2年生 1学期						
科目的目的と概要	社会の変動に伴って社会福祉の制度や方法などがどのように進展してきたかについて理解する。 現代の社会保障制度と社会福祉・在宅福祉サービス、今後の課題などについて理解する。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP5, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 社会保障制度・社会福祉の歴史的変遷と概要を理解できる 2. 対象者の生活問題に対して社会保障制度の活用法を理解することができる 3. 社会保障制度の今後の課題を理解することができる						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 社会保障・社会福祉の全体像			2		講義	
2	2025年 地域包括ケアシステムにむけて			2		講義	
3	社会資源 社会保健の内容 生活問題にどう対応するか			2		講義	
4	社会福祉八法 生活問題と社会福祉			2		講義	
5	障害福祉について			2		講義	
6	福祉の歴史的変遷			2		講義	
7	高齢者の介護施設の種類			2		講義	
8	介護保険制度 全体像			2		講義	
9	介護保険制度 事例			2		講義	
10	児童家庭福祉について			2		講義	
11	社会的養護について			2		講義	
12	権利擁護 虐待防止法 生活保護			2		講義	
13	ソーシャルワークの事例			2		講義	
14	ソーシャルワークと多職種連携			2		講義	
15	まとめ			1		講義	
16	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉(医学書院)						
関連科目	関係法規 公衆衛生学 地域・在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学						

科目名	健康支援論	単位	1	時間	15	講師名	教員
開講時期	1年生 1学期						
科目の目的と概要	健康についての考え方を知り、健康を支える取り組みを理解する。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP5、DP6、DP7の達成に寄与						
到達目標	1. ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。 2. 生活習慣におけるヘルスプロモーションが理解できる。 3. 健康教育のための方法が理解できる。 4. 健康教育を実施し、評価ができる。						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. ヘルスプロモーションの考え方 1)自己の考える健康について 2)ヘルスプロモーション 3)健康と病気のとらえ方 2. ヘルスプロモーションと健康政策 1)WHOとは 2)日本のヘルスプロモーションと健康政策	2	講義				
2	4. 生活の場におけるヘルスプロモーション 1)ヘルスプロモーションの対象 2)ヘルスプロモーションの場 5. ヘルスプロモーションと看護 1)学校 2)職場 3)病院(施設) 4)家庭 5)地域	2	講義				
3	6. ヘルスプロモーションのための健康教育 1)健康教育とヘルスプロモーション 2)健康教育のアプローチの方法 3)教育技術 4)ナッジの考え方 5)ヘルスリテラシーとは	2	講義				
4	7. 生活習慣におけるヘルスプロモーション① 1)栄養・食生活 2)運動 3)活動・休息 4)排泄 5)清潔 6)歯・口腔 【グループ学習】 1)～6)の生活習慣におけるヘルスプロモーションについて各グループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する	2	演習 (グループ学習)				
5	7. 生活習慣におけるヘルスプロモーション② 1)栄養・食生活 2)運動 3)活動・休息 4)排泄 5)清潔 6)歯・口腔 【発表・意見交換】 生活習慣におけるヘルスプロモーション①でまとめた資料をもとに、発表と意見交換を行う	2	演習 (発表・意見交換)				
6	8. 健康教育の実際① 健康教育の実施に向けた準備 【グループ学習】 生活習慣におけるヘルスプロモーション①でまとめた内容を用いて、地域住民(オープンキャンパス参加者)への健康教育の方法を検討し、必要な資料を作成する	2	演習 (グループ学習)				
7	8. 健康教育の実際② 地域住民(オープンキャンパス参加者)に対する健康教育の実施と評価 【グループ学習】 健康教育の実際①で検討した健康教育を地域住民(オープンキャンパス参加者)に実施し、実施結果を評価する	2	演習 (グループ学習)				
8	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(第1～3回):60点 演習参加状況【ピア評価、成果物を含む取り組み状況の評価】(第4・5・6回):30点 演習評価レポート(第7回):10点						
テキスト	新体系看護学全書 ヘルスプロモーション 別巻(メディカルフレンド社)						
関連科目	保健医療論、関係法規、公衆衛生学、社会福祉、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論、地域・在宅看護論						

科目名	公衆衛生学	単位	1	時間	15	講師名	院外講師 (姫路市保健所医師)
開講時期	2年生 2学期						
科目的目的と概要	公衆衛生学に関する統計情報を理解し、組織的な保健活動を理解する						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP5, DP7の達成に寄与						
到達目標	1. 日本における公衆衛生学の統計情報を理解できる 2. 組織的な保健活動を理解できる 3. 生活者・勤労者のための保健活動を理解する						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 公衆衛生学の領域、活動の特徴、健康の概念 指標(人口動・静態)			2		講義	
2	疫学・指標に基づく公衆衛生(少子高齢化問題【2025年問題】) 統計学的単位 合計特殊出生率 平均寿命 受療状況 有病率 罹患率)			2		講義	
3	疫学・指標に基づく公衆衛生(死因統計 悪性新生物の部位別男女別 死亡数 5年生存率など)			2		講義	
4	感染症対策と予防接種			2		講義	
5	地域保健 精神保健 母子保健 学校保健			2		講義	
6	主な感染症と動向(インフルエンザ 結核 HIV ウイルス性肝炎)			2		講義	
7	環境保健(地球環境 食品及び家庭用品 ごみ・廃棄物 住環境) 産業保健(労働安全衛生 職業病の予防 自殺対策 ワーク・ライフ・バランス)			2		講義	
8	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生(医学書院) 国民衛生の動向						
関連科目	微生物学 関係法規 社会福祉 地域・在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学						

科目名	保健医療論	単位	1	時間	15	講師名	院外講師
開講時期	1年生 2学期						
科目的目的 と概要	医療の要点を理解し、現代社会において医療がどのように展開されているか、また今後どのように変化していくか医療の動向を学ぶ。						
授業の位置づけ とディプロマポリシーとの関連	DP1、DP6の達成に寄与						
到達目標	1. 健康と疾病の成り立ち、原因が理解できる。 2. 高齢者の保健、福祉の仕組みが理解できる。 3. 医療を取り巻く事項について理解できる。 4. 医療人としての倫理観について考えることができる。 5. 現代の医療問題について理解できる。						
回数	教育内容			時間		方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 健康と疾病 1)健康 2)疾病 3)疾病の原因			2		講義	
2	2. 衛生・保健・福祉 1)老人保健・福祉			2		講義	
3	3. 医療 1)医療を取り巻く事項 2)医療供給体制の現状と整備			2		講義	
4	3. 医療 3)医療供給体制の現状と整備			2		講義	
5	4. 医療人としての倫理観 1)生命の尊厳 2)人権			2		講義	
6	4. 医療人としての倫理観 3)インフォームドコンセント 4)死生観			2		講義	
7	5. 現代医療の諸問題 1)脳死と臓器移植 2)医療における患者の権利 3)死と生命保持、安楽死、死を共有する医療			2		講義	
8	終講試験			1		試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	新体系看護学全書 現代医療論(メディカルフレンド社)						
関連科目	倫理学、健康支援論、関係法規、公衆衛生学、社会福祉、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論、地域・在宅看護論						

